

学校の活動シリーズ 4 太田市立沢野中央小学校

川の子ども新聞

ISO14001の取り組み

ISO14001とは、
環境に役立つ活動を継続して行うよう会社や学校に求めた国際規格。沢野中央小では、今までの努力が認められて平成17年3月に認証を取得。みんなが取り組んでいるエコ活動について教えてもらった。

学校で家でエコ活動
天気の良い日は教室南側の電気消す、そうきんや台ふきをすくときは、バケツに冷たい水を使う、なるべくゴミを出さないようにしたりミックスペーパーを使う、花や虫などを大切に...など、環境に役立つ16項目を掲げ、これを守って学校生活を送っているんだって。

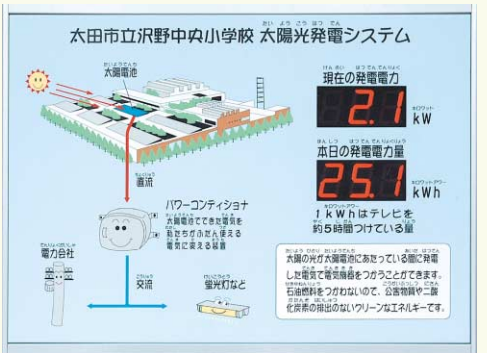
家でも「水や電気をムダにしないよう、こまめに水道を止めたり電気のスイッチを切ったりしている」「回収できるビンやリサイクルに役立てる」「歯みがきのとき、コップに水をくむ」「お風呂のお湯は洗濯に使う」などの行動が自然とできるようになったというからすごい！みんなもできそうだから始めてみよう。

学校の設備も環境に配慮
学校の校舎の屋上には、



校舎の屋上にある太陽光発電パネル

10キロワットの太陽光発電パネルがあって、1カ月でおよそ900キロワット時の電気を作っている。これは、学校で1カ月に使用する電力の5%程度になる。校内の一面には、「学校ISOコーナー」があり、リア



現在の発電量がわかる標示板

ルタイムで発電量がわかる標示板があるんだ。また、給食室には最新の技術を使った、生ゴミを水に変えてしまう機械がある。学校の設備も、環境を考えたものになっているんだね。



ピオトープを前にハイ、ポーズ!



ヤゴ(写真は抜け殻)、タニシ、アマガエル、タイコウチ、ミズスマシ、トンボ...いろいろな生き物と出合える



休み時間にピオトープを観察する生徒たち

命を身近に感じて
みんなで作ったピオトープ。休み時間に見に行ったり、授業



1 生徒たちが描いたピオトープの設計図

ピオトープができるまで
ピオトープができるまでのことを聞いてみた。

- 1 イメージ案・設計図作りノ5、6年生が作ったイメージ図をもとに、池を中心としたピオトープを作ることに決定。
- 2 穴ほり/PTAの人が機械でピオトープ用の穴をほってくられた。その後、みんなでスコップやシャベルを使って穴を深くした。
- 3 毛布・ゴムシート敷き/池の底に毛布を敷き(ゴムシートが破れないよう)、その上に水が漏れないようゴムシートを敷いた。
- 4 土の埋め戻し/ゴムシートの上に穴をほったときの土を戻して池底を作った。
- 5 水入れ/完成/いよいよ水入れ。一晩おいて水が漏れないかチェックしたあと、クロメダカやマコモ、フナ、ヒシなどを池に入れて完成。

「川の子ども新聞」では、川や自然に関する活動をしている小学校を紹介している。4回目となる今回は、太田市立沢野中央小学校。平成15年にできた新しい学校で、校庭に子どもたちが中心になって作ったピオトープがあるというので見せてもらってきたよ。

ピオトープって何だ?
ピオトープは、bios(生き物)とtopos(場所)を合わせたドイツ語「生き物が暮らす場所」という意味で使われるんだ。だから、池や沼、草原や森も立派なピオトープ。最近では人間の住んでいるところの近くに人工的に作った野生生物が暮らす場所を指すことが多くなってきている。

沢野中央小では、失われつつある自然を身近に取り戻して、たくさん生き物が暮らせるピオトープを校内に作るという計画。子どもたち、先生、PTAとみんなが参加して手づくりのピオトープを完成させたよ。

に使ったりと大活躍している。環境美化委員は、メダカをすくってきて水槽で飼育。そこから、赤ちゃんメダカが孵ってみんな大喜び。新しい命が誕生するってすてきうれしいことだよね!

ピオトープができて楽しかったこと、気になったことを聞いてみた。「どんな生き物がきて

いるか、休み時間に見に行くのが楽しみ」「ほとんど生き物が増えていくのがうれしい」「ヤゴがトンボになるのを見たときはワクワクした」「冬は、池に氷が張ったからメダカが心配だった」という意見が出たよ。

これからは、大きな木も育つようになったら楽しそう!「もつといるんな生き物が集まってきてほしい」「僕たちが卒業してからメダカをどんどん増やしてほしい」と夢を話してくれたよ。沢野中央小で育つ命がもつと増えたら楽しいね!



ピオトープについて話をしてくれた子どもたち

みんなの学校でも、川や自然に関する活動をしていたら編集部まで教えてね。(ファクス/027-254-9904)

家で「ミニピオトープ」をつくろう!

本来のピオトープ(野生生物のすみか)とは少し意味がちがうけれど、小さな水鉢などの中だけでもピオトープをつくれるんだよ。みんなもつくってみよう!

用意するもの
水鉢(またはバケツやボウルなど)、水生植物用土、植物(植えつけるもの)「パルスイロカヤツリなど・浮き草にするもの」ホテイアオイ、ウォーターレタスなど、水生動物(めだか、どじょう、おたまじゃくしなど)

作り方
1 まず水鉢の中に土を少し入れる。
2 その上に植えつける植物をバララン

冬から春のようす
12月に入り、冷えこみの厳しい朝は池の全面に薄い氷が張るようになった。池の周りに、グミの木を植えた。メダカの数が増えたので、「死んでしまったのかな?」と心配になった。春になり、再びたくさんメダカが見られるようになったので、ホッと安心。周りの植物も緑色になり始めた。

秋のようす
気温が下がるにつれ、ピオトープの周りに植えた植物もすくすく枯れてしまった。メダカも数はほとんど減ってはきたものの、元気よく泳ぐ姿を見ることができた。

夏
はじめに池に入れた生き物以外に、いろいろな生き物がやってくるようになった。トンボもたくさん飛んできては、産卵するようになった。小鳥たちが、池の間の水路で気持ちよさそうに水浴びをしていることもある。マコモやフナなどの植物も増えてきている。

春
植物も元気を取り戻し、また緑が多くなってきた。アメンボがスイスイと動き回り、ゲンゴロウなどの水生昆虫も見られた。ピオトープを作ったときは、100匹程度だったクロメダカも、かなり増えた。池の中では、スイレンやガガブタなどが育ち、きれいな花を付けるようになった。後から入れたヤゴがふ化するようすも観察できた。

夏
水面にはさまざまな植物が花を咲かせる

タニシ(9月)
「ガガブタ」という植物で直径1.5cmほどの白い花をつける。朝から昼過ぎまで開き、夕方には水の中に沈む(7月)

フランフルトソーセージ みたいなガマの穂(9月)
赤トンボ(ナツアカネ)がたくさんやってきた(8月)

注意する点
・夏のあいだは日かげに置く。毎日水を足す。

スを考えて植える。
3 水を静かに注ぎ込む。浮いているゴミなどは水をあふれさせて流す。
4 浮き草を浮かべる。
5 ひと晩以上置いて水のカルキを抜く。
6 メダカなどの小さな動物を入れて、出来上がり!

ピオトープ季節めぐり

季節が変われば、姿も変わるピオトープ。どんな変化があるのかな? 学校の記録を見ると、それがよく分かるよ。

冬から春のようす
12月に入り、冷えこみの厳しい朝は池の全面に薄い氷が張るようになった。池の周りに、グミの木を植えた。メダカの数が増えたので、「死んでしまったのかな?」と心配になった。春になり、再びたくさんメダカが見られるようになったので、ホッと安心。周りの植物も緑色になり始めた。

秋のようす
気温が下がるにつれ、ピオトープの周りに植えた植物もすくすく枯れてしまった。メダカも数はほとんど減ってはきたものの、元気よく泳ぐ姿を見ることができた。

夏
はじめに池に入れた生き物以外に、いろいろな生き物がやってくるようになった。トンボもたくさん飛んできては、産卵するようになった。小鳥たちが、池の間の水路で気持ちよさそうに水浴びをしていることもある。マコモやフナなどの植物も増えてきている。

春
植物も元気を取り戻し、また緑が多くなってきた。アメンボがスイスイと動き回り、ゲンゴロウなどの水生昆虫も見られた。ピオトープを作ったときは、100匹程度だったクロメダカも、かなり増えた。池の中では、スイレンやガガブタなどが育ち、きれいな花を付けるようになった。後から入れたヤゴがふ化するようすも観察できた。

学校の活動シリーズ 4

太田市立沢野中央小学校

みんなで作ったピオトープ

